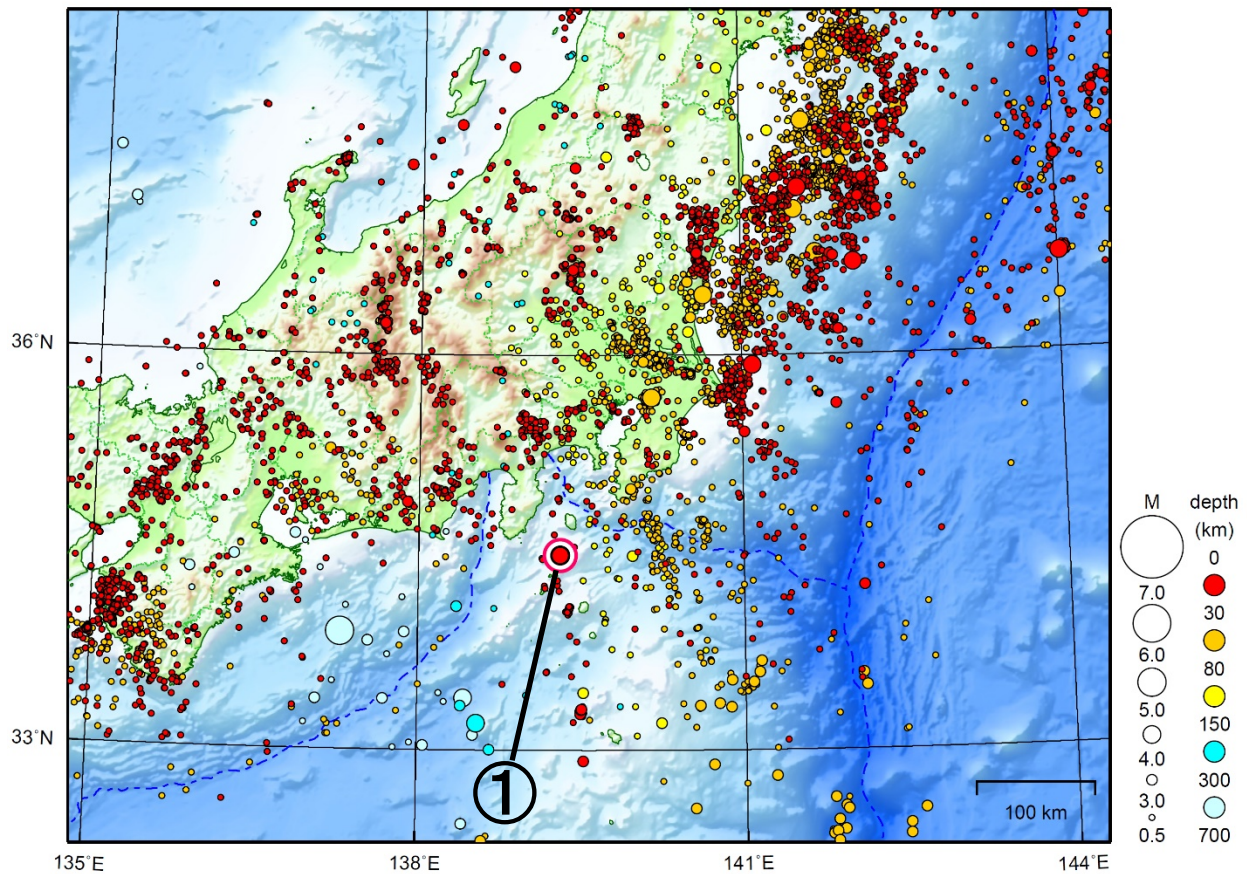


関東・中部地方

2021/01/01 00:00 ~ 2021/01/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 1月1日に新島・神津島近海で M4.7 の地震（最大震度 4）が発生した。

（上記期間外）

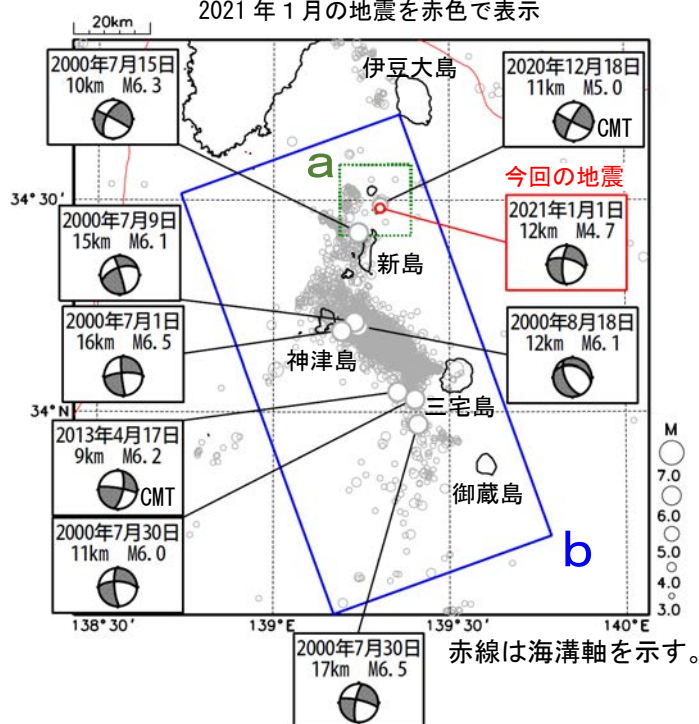
2月2日に栃木県北部で M4.0 の地震（最大震度 4）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

1月1日 新島・神津島近海の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2021年1月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 3.0$)
2021年1月の地震を赤色で表示

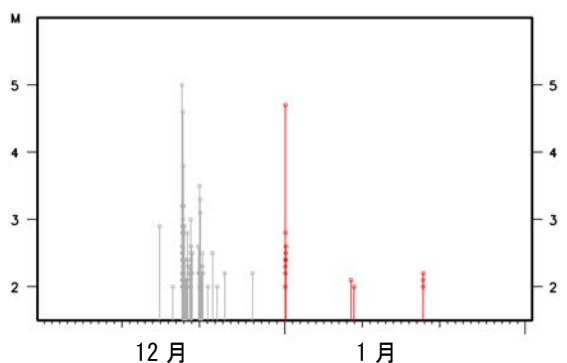


2021年1月1日01時53分に新島・神津島近海の深さ12kmでM4.7の地震（最大震度4）が発生した。この地震はフィリピン海プレートの地殻内で発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。今回の地震の震央付近（領域a）では2020年12月半ばから地震活動があり、1月31日までに領域a内で震度1以上を観測した地震は40回発生した。このうち最大規模の地震は、12月18日に発生したM5.0（最大震度5弱）である。

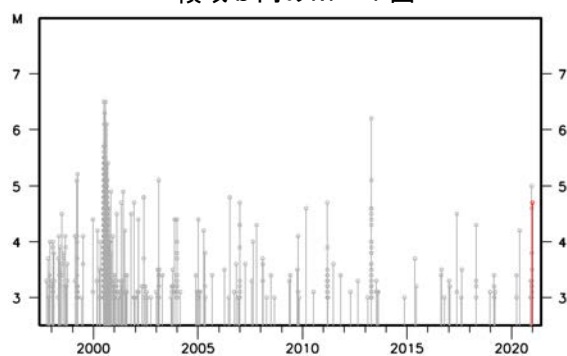
1997年10月以降の活動をみると、新島・神津島から三宅島にかけての領域bで、三宅島の火山活動が活発であった2000年の7月から8月にかけてM6.0以上の地震が6回発生した。このうち7月1日に発生したM6.5の地震により、死者1名などの被害が生じた（総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）ではM6.0以上の地震が時々発生している。

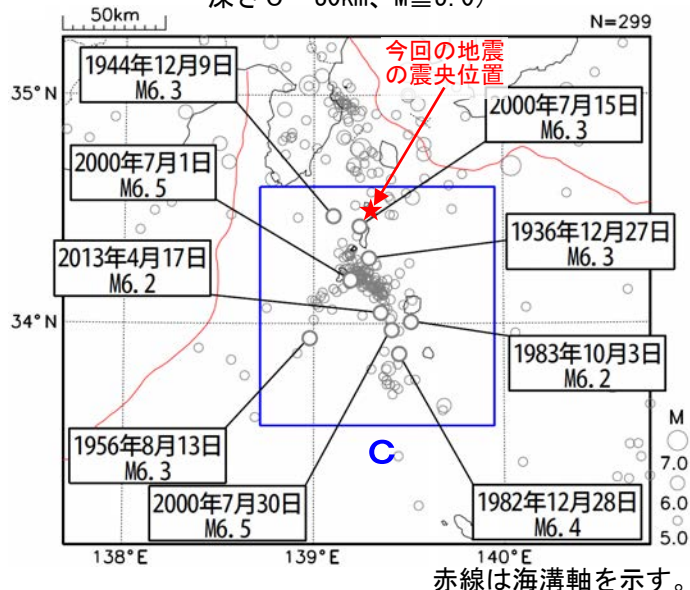
領域a内のM-T図
(2020年12月1日～2021年1月31日、
 $M \geq 2.0$)



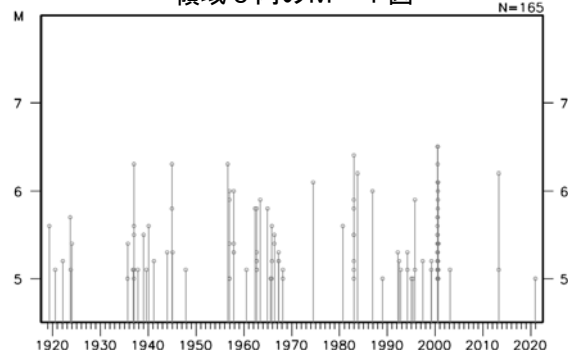
領域b内のM-T図



震央分布図
(1919年1月1日～2021年1月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 5.0$)

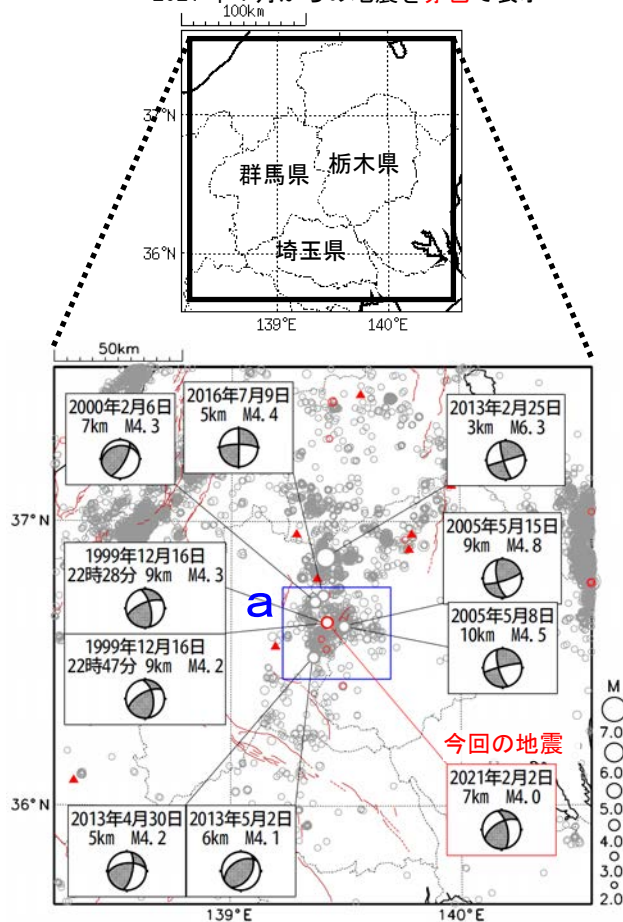


領域c内のM-T図

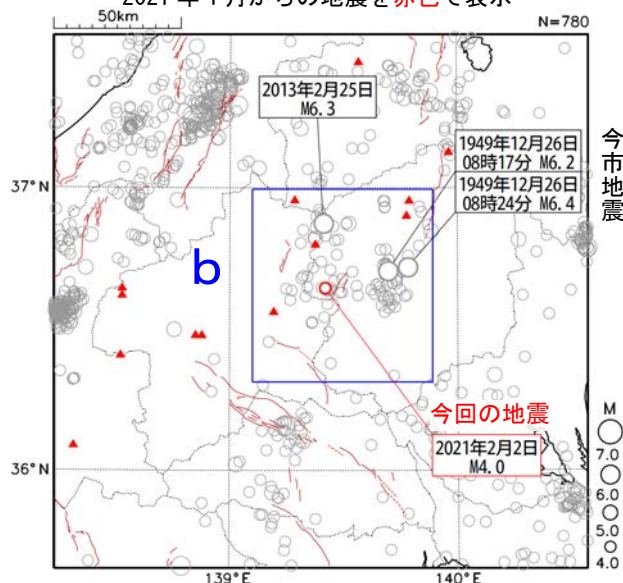


2月2日 栃木県北部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2021年2月2日、
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)
2021年1月からの地震を赤色で表示



震央分布図
(1919年1月1日～2021年2月2日、
深さ0～40km、 $M \geq 4.0$)
2021年1月からの地震を赤色で表示



震央分布図中の▲は活火山を示す。

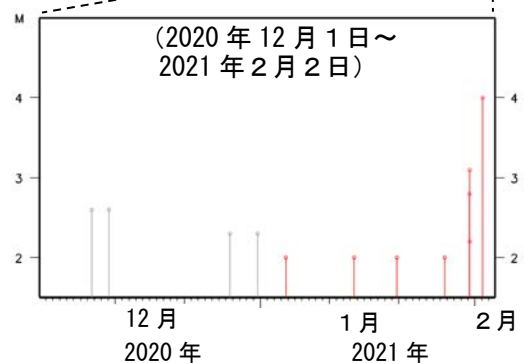
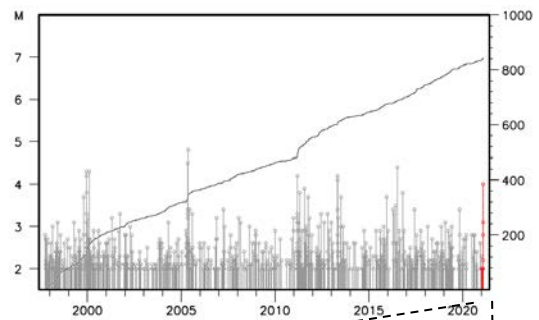
茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

2021年2月2日03時01分に栃木県北部の深さ7kmでM4.0の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は西北西—東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）ではM4.0以上の地震が時々発生している。このうち、1999年、2005年及び2013年には、ほぼ同じ場所で1週間以内にM4程度の地震が2回発生している。なお、2013年2月25日にはM6.3の地震（最大震度5強）が、領域aの北側で発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、1949年12月26日に今市地震（M6.4、M6.2）が発生しており、死者10人、負傷者163人、住家全壊290棟などの被害を生じた（「日本被害地震総覧」による）。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図

